

大平さんの想い出

江 戸 英 雄

大平さんに初めてお目にかかつたのは、大蔵省の給与課長時代ですが、親しくしていただくなつたのは、池田勇人さんの秘書官時代からです。大変長いお付き合いでしたので、たくさん想い出があります。

その一つ。昭和二十四年頃のこと、私は同郷で旧制水戸高校の後輩に当る新進代議士の故塙原俊郎君から、地元一致の推薦で当選確定であるということで、茨城県の参議院議員補欠選挙に立候補のすすめを受けました。当時は、職場の三井本社が財閥解体で解散させられ、浪々一年の末、第一会社といつべき現在の三井不動産会社に移り、戦後の再建に苦労を重ねていた時代でした。私は毛頭立候補の意志はありませんでしたが、わざわざのすすめですので「親分の池田さんに相談してから」ということで、早朝信濃町の池田さんのお宅にうかがいました。池田さんは戦前から社業について何かといじ厄介になつていましたが、私の家が近くにあつた関係もあり、頻々と親しく出入りさせていただいていました。池田邸の応接間に大平秘書官がおられましたので、まことに意見をうかがいましたら、絶対にやめるというのです。「私は、あなたの門前に大の字になり、自分をひき殺して出るか、然らずんばやめろ」とまでいわれました。

その二。昭和二十六年の春、大平秘書官が池田さんのお使いでおみえになりました。当時私は会社の取締役業務部長をしていました。財団法人文化住宅協会の事業に協力のこと依頼です。この協会は、大衆住宅の建設を目的とする大蔵、建設OBの事業で、元建設次官の若沢忠恭さんが理事長、愛知揆一さんも理事に参加しておられま

した。窮屈した当時の日本の住宅事情の上からみて、社会性もあり社業にも関連ありと判断し、協力することになりました。長いこと大平さんと一人で最高顧問に就任していましたが、不幸、事件がもつれて国との間の二十年近い長期にわたる係争事件にまで発展、私は証人として大平さんと東京高等裁判所の証言台に立ち、真相を証言しました。結局、石田和外裁判長のとき、最高裁判所の再審判決により勝訴になりました。私どもの証言が重要な判断資料となつたと思います。この後身が、現在上村健太郎氏を理事長とする財団法人住宅総合センターで、資産四十三億五千万円で国の住宅政策、土地政策の研究機関として国策に貢献しています。

その三、池田さんグループの後援組織として末広会というものがあります。昭和三十二年に国士開発社長の故高木陸郎さんが吉田茂さんのお勧めにより、池田さん後援のため有力財界人を集めて結成したもので、大平さんは初めから毎月一回の例会に前尾さんと一緒に出席になつていきました。後には、宮沢さん、黒金さん、小坂さん、鈴木現総理、更に近年は池田行彦さんも参加しておられます。高木さんご逝去の後、後任社長の佐渡卓さんが世話役になり、私も寺尾一郎さんと幹事役を務めてまいりました。現在は佐渡さんの後任、石上社長が世話役になっています。池田さんご逝去の後も会員の総意により存続、池田グループ後援組織として綿々二六四回、今日まで続いています。この会が他の同種の会と全く趣を異にするところは、この家族ぐるみの会合もあることあります。池田勇人夫人のこの家族もお招きして年一回の懇親会を持ち、特に十数年来、毎夏軽井沢でのこの家族一緒にゴルフ会と夕食会が催され、大平さんは奥さんとの一緒に欠かさずご参加になつていきました。大平さんは、昭和四十九年と五十年には素晴らしいスコアで連続してゴルフコンペに優勝されました。ご急逝後、追悼の意味も込めた昨年夏のマッチには、ご令嬢の森田夫人が優勝し、鈴木総理の大カップを射とめられました。

大平さんがアベック選舉前の過労のために、ご急逝になつたことは残念至極です。

(三井不動産会長)